

新連載

地域に新たな風を吹き込む

地域おこし協力隊へのインタビュー

道内の地域おこし協力隊は、毎年増加し、地域活性化はもとより、地域の担い手確保など、人の流れをつくるきっかけづくりとして定着しています。全道各地で地域に新たな風を吹き込む存在として地域振興の様々な場面で活躍する隊員へのインタビューをシリーズで紹介し、活動を応援します。

第一弾

森町
地域おこし協力隊

木村 一夢さん
小川 航輝さん



【プロフィール】
木村一夢さん(右)専門学校でクラフトデザインを専攻。令和3年11月から活動開始。小川航輝さん(左)大学で建築を専攻。令和5年2月から活動開始。

▼森町の協力隊となった経緯を教えてください。

(木村)専門学校時代はクラフトデザインを専攻していて、木工も学んでいました。卒業後も木工のデザイン製作をしていて、専門学校時代にお世話になった先生を通じて、森町から林業をPRする協力隊募集のお話を聞いたのがきっかけです。今後も続けたかったので半年後に森町の協力隊となりました。

(小川)前職は建築会社に勤めており、そこで木材加工の機械を運用管理していました。森町の材木店で機械の運用について見学した際、担当者の方から、森町役場を紹介いただき、そこで協力隊員のお誘いを受けました。森町の林業の取組に興味を持って、お誘いを受けた一年後に森町の協力隊となりました。

▼現在の業務内容について教えてください。

(木村)現在は道産木材の魅力をPRしたり、道産木材を使った製品開発をしています。また、昨年木育マイスターの資格を取得したので、木育活動にも取り組んでいます。

(小川)森町で木製カヌーを製作している方がいるので、その方の下でカヌー作りを勉強しています。ゆくゆくは道産木材で作ったカヌーを起爆剤とし、カヌー

体験などのアクティビティを整備し、森町に滞在する意義を生み出したいと考えています。

▼今後、任期中にどのような活動をしていきたいか教えてください。

(木村)任期終了がだんだん近づいていますが、現在は協力隊の業務をやりながら、色々なプロジェクトに携わっています。活動範囲をより広げ、今後も北海道の木を使った製品作りをしていきたいです。

個人的ではありますが、サウナを作りたいです。

(小川)町内で一次産業に携わっている方々と交流する機会があるのですが、異なる業種の方と関わることで、新しい仕事が生まれることにやりがいを感じています。自分は建築を専攻していたので、そのスキルを還元していきたいです。

▼協力隊の活動を通して感じている町の魅力を教えてください。

(木村)町の人たちはオープンな方ばかりで、協力隊を快く受け入れてくれるので、人の繋がりが非常に濃密だなと感じました。今いただいている仕事も、人づてで紹介してもらったりしているので、何事も人との繋がりが大事だと感じました。

(小川)町の人たちがすごく魅力的で、自分のような協力隊の活動をすごく応援してくれるので、色々な方の支えや応援が

あつて、協力隊活動ができているのだと実感しています。

▼協力隊の任期終了後に森町でやりたいこと、目指したい森町の将来像について教えてください。

(木村)今は色々な所に行つて、新しいことを吸収している段階なので、一時的に町を離れるかもしれませんが、森町の環境は好きなので、今後も森町と繋がっていきたくて思っております。

(小川)協力隊になってまだ半年ですが、今はやりたいことができているし、生活していてすごく心地良い場所なので、任期終了後も森町に定住して、仕事をしていきたいです。



▲小川さんが地元の漁業者とタッグを組んで作成した、市場に卸す魚につけるタグ。このタグを付けたことで市場での価格が上がった。



▶木村さんがクラフトデザインの知識をいかし、杉の木で作成したアクセサリとボールペン。木に樹脂を染みこませ長く愛用してもらう工夫を施している。



【プロフィール】神奈川県海老名市出身。玉川大学卒業後、コンサルティング会社で2年間勤務。その後、陸上自衛隊に入隊。二任期（4年間）満了後はリサーチ会社に入社。令和4年11月に Founding Baseに入社し、関係人口・移住定住促進事業を行う。



第二弾

美幌町 地域おこし協力隊

一戸 現貴さん

▼美幌町の協力隊となった経緯を教えてください。

「超直接的に人の役に立つ仕事を経験したい！」という思いから24歳で自衛隊に入隊しました。そこで出会った同期の話を聞くうちに、「まちづくり」や「シビックプライド（郷土愛）の醸成」に興味を持ちました。リサーチ会社に転職後、幅広い企業の調査業務を行う中で、現在所属する企業を知り、実際に社員が地域に移住して関係人口・移住定住促進事業を行うことに興味を持ち、転職を決意しました。提案された勤務地の中から、地域おこし協力隊の業務委託を受ける「美幌町」を選び、昨年11月に地域おこし協力隊として着任しました。



▼現在の業務内容について教えてください。

今年4月にオープンした WorkingSpace KITENで勤務しています。KITENはコワーキングスペース兼コミュニティカフェ兼移住相談拠点と複数の機能があります。私は、ワークスペース・イベント運営を通して、交流・関係人口の創出を行うとともに、KITENにて移住相談も対応しています。当初は、コワーキングスペースやサテライトオフィスの機能としての活用を想定していましたが、地域の方が集う場所として4〜8月で約2500名以上の方にご利用いただいています。

▼今後、任期中にどのような活動をしていきたいか教えてください。

「コワーキングスペースは全国的に飽和状態と言われているので、利用が少ない施設も多い中で「なんかKITENって場所が盛り上がりつつあるらしいよ」という情報が、SNS等を通じて地方創生やESG投資に興味のある企業の方に認知されて、何かチャレンジをしている人たちの集まることにしたいです。地域の人たちとイベントをやりながら意見交換もできる場所「オホーツクのキープレイス」を目指していきたいです。

▼協力隊の活動を通して感じている美幌町の魅力を教えてください。

「自然と都市機能のバランスの良さ」です。自然度というものを数値にしてみましたとして、大都会の自然度が0〜5、知床や弟子屈といった国立公園が町の面積のほとんどを占める町が100だとします。美幌町の自然度は70くらいかなと思います。大都会の様なきらびやかさはなくても、自然の雄大さを体感出来ますし、知床や弟子屈の自然には勝てない分、都市機能が集約されており不便を感じないバランスの良いまちだと感じています。



▲ イベントの様子
「窓と車にラクガキ」(上)
「心をほぐすコーヒー講座」(下)

▼協力隊の任期終了後に美幌町でやりたいこと、目指したい町の将来像について教えてください。

私は委託型の地域おこし協力隊ですが、KITEN及び周辺地域の活性化を行いながら、任期終了後も美幌町に残り続けたいと考えています。この地域一帯の魅力ができればいいなと考えており、グランピングなどで年に一回必ず美幌町を訪れる観光交流人口をつくりつつ、将来的に二拠点生活やリタイア後にここに住もうかなという人が増えるのいい流れだと思っています。長い目でみると人口が減っていく日本社会ですが、楽しく過ごしていく人が増えるお手伝いができたら僕としては嬉しいですし、やりがいがあると思っています。

そのためにも今は目の前にある問題・課題を解決し、日々のスペース・イベントの運営クオリティを高めてまいります。



▲ 8月下旬〜9月上旬に運営したグランピング。オホーツク管内だけではなく、道外からの参加者も！地域おこし協力隊インターン3名も運営に参加した。



ほしい情報がきっと見つかる！ 北海道移住に役立つ情報サイト・SNS

移住ポータルサイト 「北海道で暮らそう！」

北海道の市町村情報をはじめ、「しごと」や「住まい」など、暮らしに必要な情報をまとめて発信中！



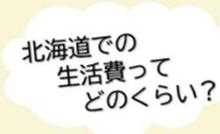
ドアーズ,ホッカイドウ DOORS,hokkaido

道内各地のイベント、暮らしやコミュニティ、新しい「かかわり方」を実践する人たちの情報等、北海道の関係人口情報を発信中！



北海道移住後の生活費を シミュレーション！

北海道への移住後の生活費ってどのくらい？家賃や光熱費等、生活費のシミュレーションを道内10エリアに分けて掲載中！



北海道型ワーケーション ポータルサイト

おひとりでも、会社の皆さまとでも。それぞれの働き方・休み方にあった、北海道だからできるワーケーションを見つけてみませんか？



北海道とつながるSNS 公式YouTube「移住だべさ！北海道チャンネル」

北海道の移住イベント情報など随時配信中！まずはSNSで、北海道とつながりませんか？



Instagram



Facebook



LINE



移住PR動画や移住者インタビュー、北海道の仕事や地域でのワーケーション動画など100本以上公開中！



YouTube



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議

検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>